

ご挨拶

この度、急遽、家庭の都合により9月末日をもって退職することとなりました。

皆様方個別にご挨拶もできず大変申し訳ございません。

平成21年11月当院へ着任し、16年間多くの方におつき合い頂きました。大変お世話になりました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

前職が医学部教育に携わる業務であったこともあり、着任以来、基本に忠実な診療に心がけたつもりです。しかし、実際の臨床現場では決して教科書通りとはいかず、「患者さんのご希望」「私の医療に対する理想」「科学的な裏付けある診療」の間には絶えず乖離が生じ、その隙間を充填することに苦心してきました。結果、多くの患者さん方から叱責やご指導を頂戴いたしました。しかし、その一方で時に暖かい感謝のお言葉を頂くこともあり、試行錯誤の中から皆様から「信頼」という大きなエネルギーを得て、日々前に進むことができたと自負しております。

この16年の間には東北大震災や新型コロナパンデミックなど、診療の在り方だけでなく社会の中で生きることに対する価値観を根底から変えてしまうような大きな事象があり、当院が地域医療の拠点としての真価を問われる時期もございました。皆様方の中には未だに心や身体に大きな傷跡を残されている方もおられると思います。その都度、スタッフ一同と共にできる精一杯の診療をしてまいりましたが、物資や空間の制限、人材の不足など必ずしも皆様の「信頼」に応えられなかった時期があったかもしれません。なにとぞご容赦ください。

現代は情報が容易に入手できる反面、その真贋を見分ける力が必要な時代です。何が正解なのか分かりにくい時代となったからこそ、地域医療に関わる医療機関が皆様からの「信頼」を勝ち取る必要があると思いますし、今後は私の同僚たちがその期待に応えてくれると強く信じています。

長く暑かった夏の終わりが近づき、これからは急速に冬に向けた身体と心の準備をしなければなりません。「肉体の冷え」も「心の冷え」も病のもとです。身体の冷えは気づきやすいですが、心の冷えは意外と気づきにくく、かつ一人では暖めることが難しい状態かと思います。皆様方におかれましては地域社会や家族隣人とのより良き関係を構築し、心が冷えないように、くれぐれもご自愛ください。

最後に皆様方のご健康の回復と末永いご多幸をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

令和7年10月

内科医師 芦谷淳一